# 北海道ワイン と 地球温暖化

気候変動が拓く、日本ワインの新しいフロンティア

HOKKAIDO WINE × CLIMATE CHANGE



INTRODUCTION

# 日本ワインにおける北海道の存在感

**18.5%**

国内ワイン生産量に占める
北海道のシェア

**山梨・長野に次ぐ国内第3位**

かつて日本ワインの産地といえば山梨県・長野県が中心でした。しかし近年、冷涼な気候を活かした北海道が急速に存在感を高め、いまや欠かせないワイン産地のひとつとなっています。

- ワイナリー数は 2000年の1軒 から 2026年には75軒 へと急増
- 梅雨がなく低湿度で、ブドウ病害の少ない栽培環境
- 近年は地球温暖化の影響で、高級赤ワイン品種の栽培も拡大中

TERROIR

# 北海道ワインを育む、冷涼な産地特性

北海道は冷涼な気候と独自の土壌条件により、ヨーロッパの銘醸地にも通じる個性豊かなワインを生み出しています。



## 冷涼な気候

4〜10月の平均気温は15度以下と冷涼で、ドイツ・ラインガウ地方に匹敵する気候条件。



## 少ない病害リスク

梅雨がなく湿度が低いため、ブドウの病気が発生しにくく、栽培に適した環境。



## 独自の越冬技術

厳冬期にはブドウの樹を雪の下に埋める「雪下埋設」という独自の防寒法を採用。

REGIONS

# 北海道の三大ワイン産地

### 後志地方（余市・仁木）

ピノ・ノワール栽培の中心地。ワイナリーは2000年の1軒から現在15軒に増加。

### 空知地方

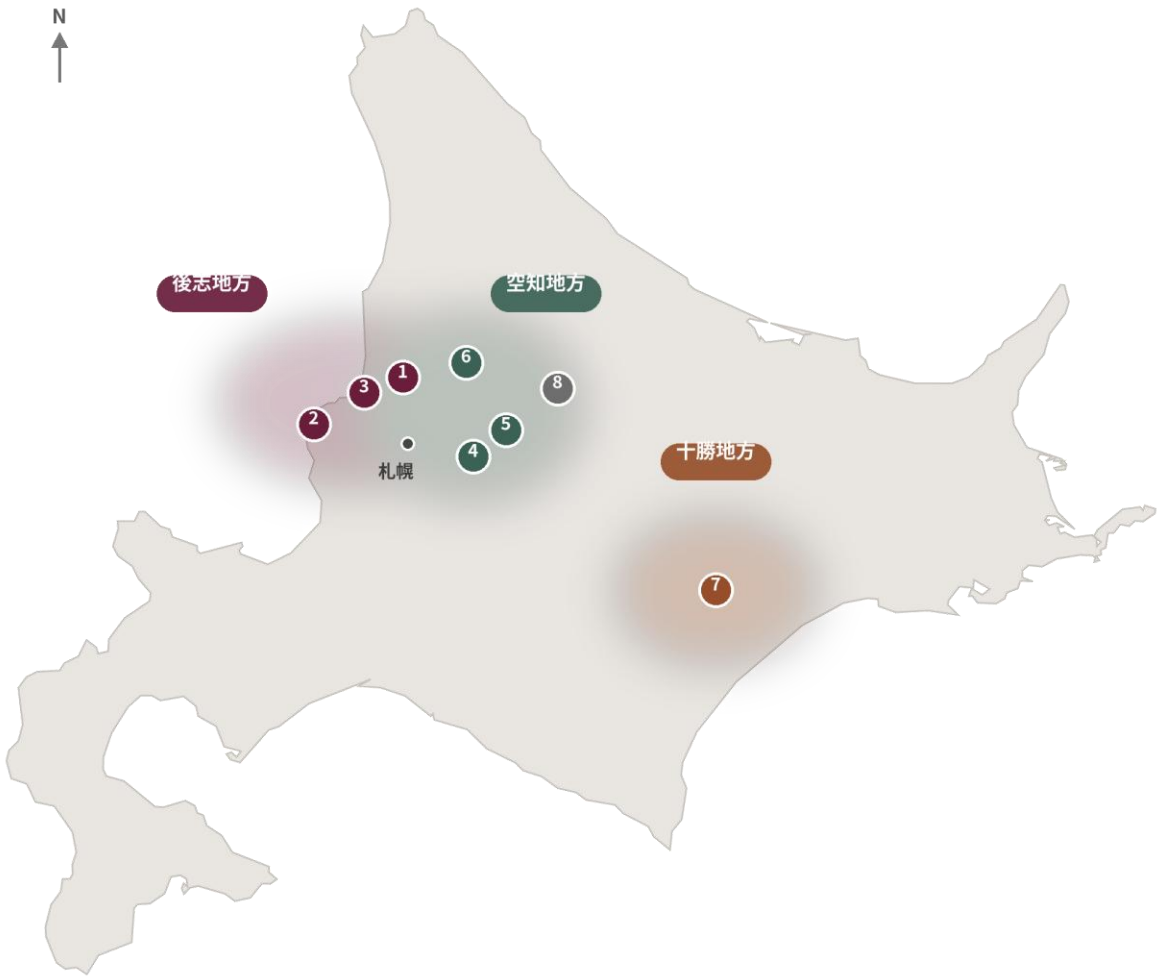
北海道ワイン株式会社傘下、447haの鶴沼ワイナリーを筆頭に個性派ワイナリーが集積。

### 十勝地方

1963年創業。自治体主導によるワインづくりの先駆けとして知られる産地。

MAP

# 北海道ワインマップ — 産地とワイナリーの分布




## 後志地方

1. 北海道ワイン
   小樽市
2. ドメーヌ・タカヒコ
   余市町
3. NIKI Hills Winery
   仁木町

## 空知地方

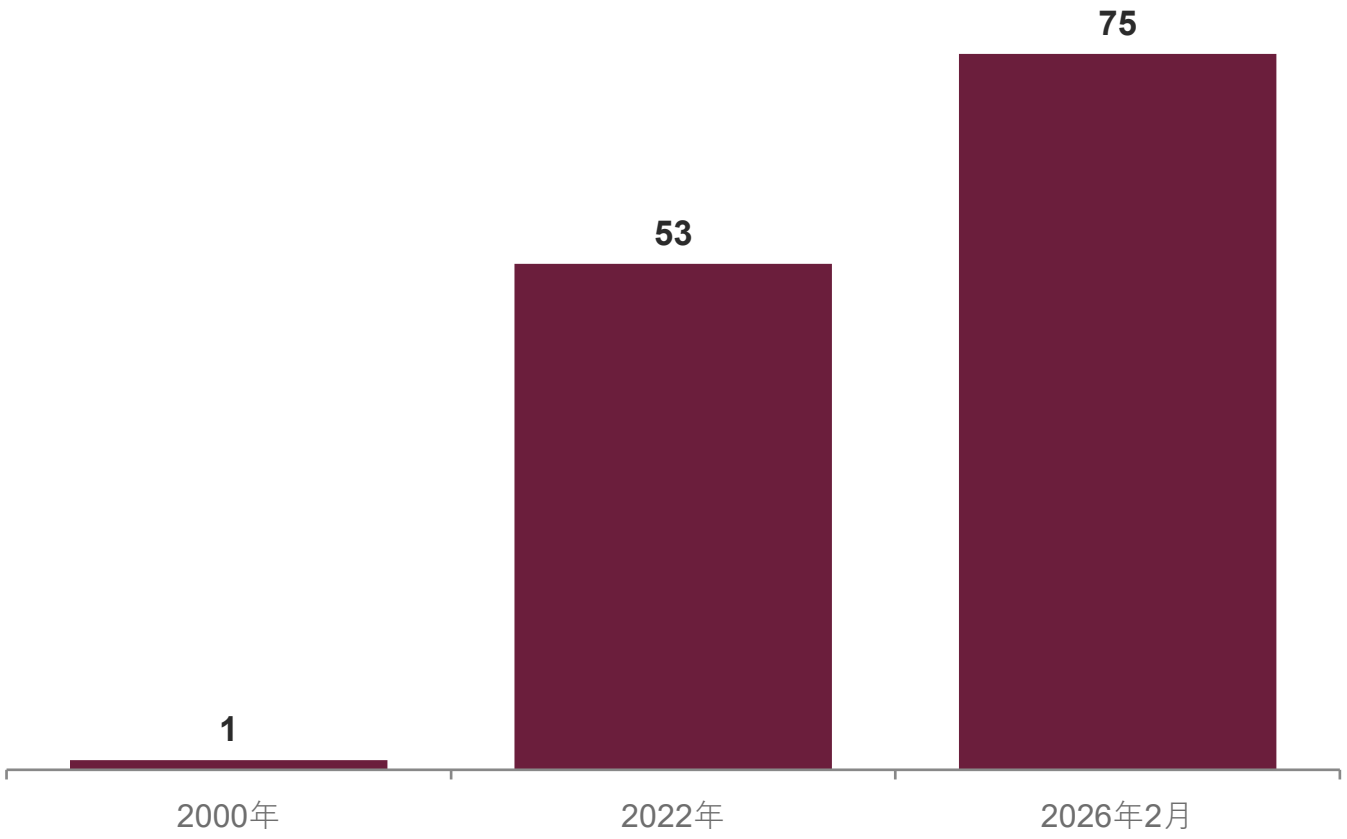
4. 宝水ワイナリー
   岩見沢市
5. 山﨑ワイナリー
   三笠市
6. 鶴沼ワイナリー
   浦臼町

## 十勝地方 ／ その他

7. 十勝ワイン
   池田町（十勝ぶどう・ぶどう酒研究所）
8. ふらのワイン
   富良野市（道央）

GROWTH

# 加速するワイナリー数の増加




## 約75倍

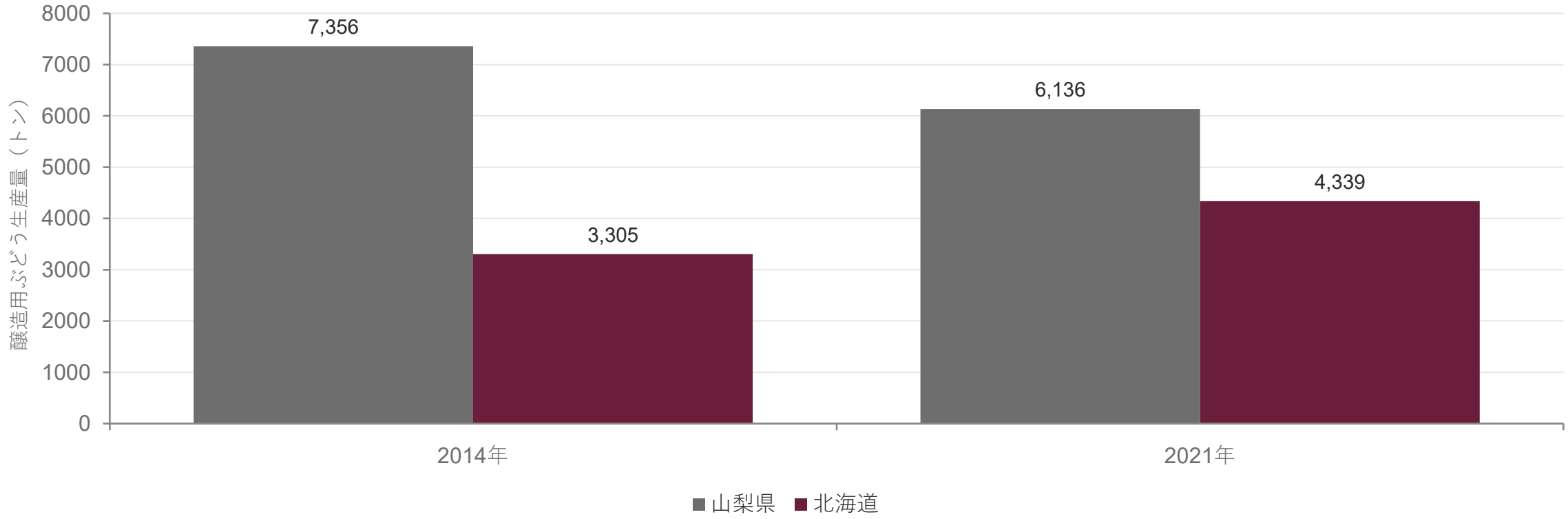
2000年から2026年までの
ワイナリー数の伸び

**この10年間だけでも
およそ3倍に増加しています**

SHIFTING TERROIR

# ワイン産地の北上 — 山梨と北海道の対比

地球温暖化により、日本のワイン用ブドウ産地は静かに北上を続けています。山梨県の生産量が減少する一方、北海道は着実に増加しています。



THE TURNING POINT

# 転機は1998年 — 気温シフトの発見

**1998**

年頃を境に気候がシフトし、
北海道の生育期気温が
安定的に上昇



農研機構の研究によると、余市町・三笠市では1998年以降、4〜10月の平均気温が14℃を安定的に上回るようになりました。

**14〜16℃**

世界のピノ・ノワール産地の
平均的な適温域

この気温上昇の背景には、太平洋数十年規模振動によるラニーニャ的な海面水温パターンが1998年以降卓越し、北日本の夏季気温を押し上げたことがあると考えられています。

ただし、気温だけでなく冬季の越冬条件や晩霜リスクも産地選定には重要な要素です。

PINOT NOIR

# なぜ「ピノ・ノワール」なのか

冷涼な気候を好みながらも栽培が難しいことで知られる高級赤ワイン品種ピノ・ノワール。北海道での挑戦の歴史をたどります。

## 1978 – 1985

### 手探りの時代

調査では「果実の熟期が遅く、成熟しない年が多かった」と報告。栽培の難しさが際立っていた。

## 2000年代〜

### 成功事例の登場

気温上昇を背景に、ピノ・ノワール導入と赤ワイン醸造の成功事例が各地で出現。

## 2010 – 2020

### 本格的な拡大期

栽培面積は16.8haから40.1haへと約2.5倍に拡大（次スライド参照）。

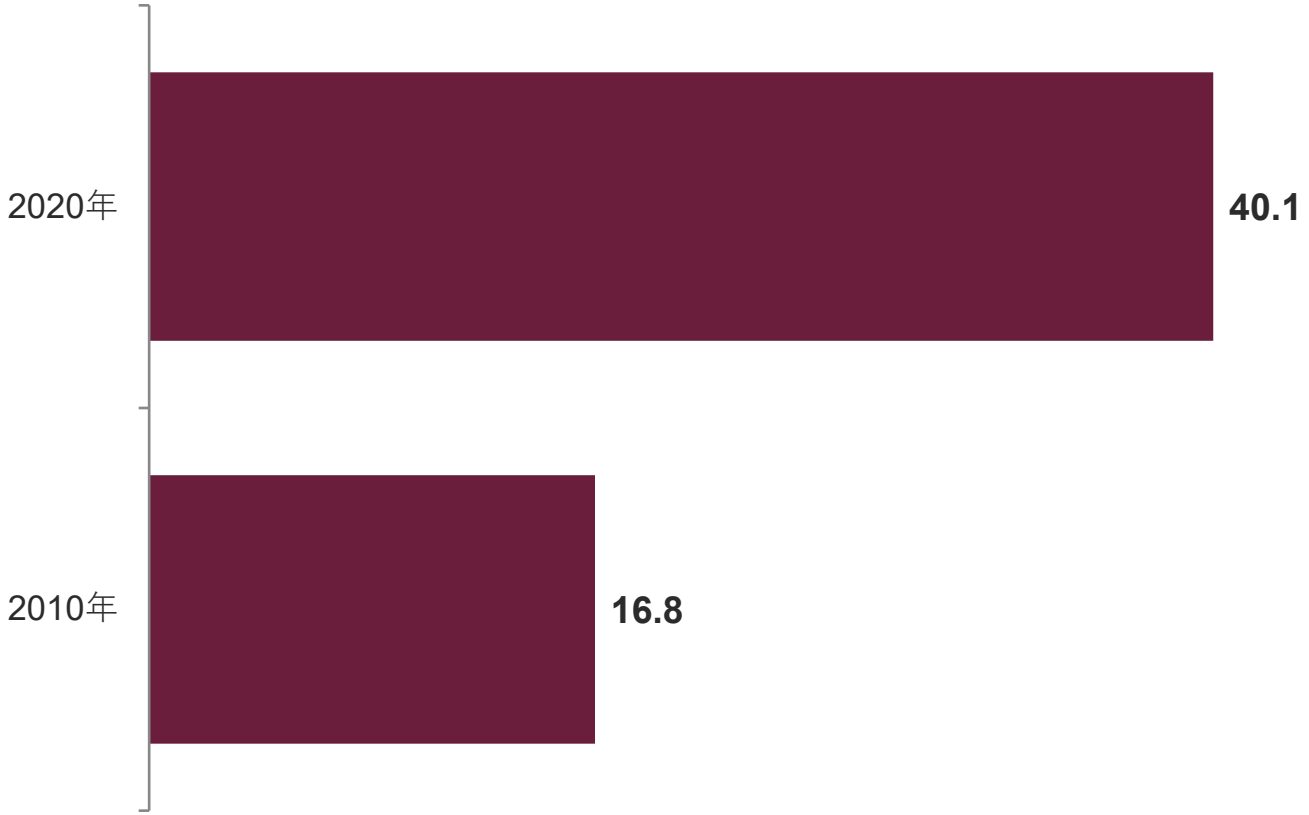
## 現在

### 北海道の看板品種へ

北海道を代表する高級赤ワイン用品種として国内外から注目される存在に成長。

EXPANSION

# ピノ・ノワール栽培面積、10年で2.5倍




## 約2.5倍

後志地方を中心に、ピノ・ノワールの栽培面積は2010年の16.8haから2020年には40.1haまで拡大しました。

VARIETIES

# 白から赤へ — 品種構成の変化

## 従来の主力：白品種

冷涼な気候を活かし、白ワイン中心の産地として発展してきました。

- ケルナー
- ポートランド
- バッカス
- シャルドネ

## 拡大する：赤品種

温暖化を背景に、赤ワイン用品種の栽培・醸造が増加しています。

- ツヴァイゲルト
- ロンド
- ピノ・ノワール

**北海道生まれの独自品種：**山ブドウとの交配種「山幸」「清舞」も登場。「山幸」は国際ブドウ・ワイン機構（OIV）に品種登録されました。

NORTHWARD EXPANSION

# 広がる適地 — 後志・空知の先へ

ピノ・ノワールの適温域は、後志地方だけにとどまりません。研究によれば、その範囲は道内各地へと広がりを見せています。

先発

## 後志地方（余市・三笠）

1998年以降、いち早く適温域に。北海道ワインの中心的な産地。

拡大中

## 上川地方（上富良野）

後志に続き適温域入り。新たな栽培地として注目される地域に。

最新

## オホーツク（北見）・札幌藤野

2010年以降、同様の気候傾向が確認され始めている地域。

GLOBAL TREND

# 世界でも進む、冷涼産地の躍進

産地の北上は北海道だけの現象ではありません。世界各地で、これまで「不向き」とされてきた冷涼な土地がワインの新たな適地に変わりつつあります。

### イギリス

温暖化の恩恵を受け、世界的に評価される「イングリッシュ・スパークリングワイン」の産地へと躍進。

### シャンパーニュ（フランス）

ルイ・ロデレールの「クリスタル」は、以前は10年に数回しか造られなかったヴィンテージが、2002〜2009年は毎年リリースされるように。

THE OTHER SIDE

# 一方で — 伝統産地が直面する試練

### カリフォルニア（アメリカ）

2017年の大規模山火事で、ナパ・ソノマ・メンドシーノなど銘醸地を中心に約4万haが被害を受けました。

### ヨーロッパ各地

温暖化により萌芽時期が早まり、その後の遅霜で甚大な被害を受けるリスクが高まっています。

### アルザス（フランス）

ゲヴュルツトラミネールなど白ブドウ品種で「糖度と生理学的熟成のバランス」を取るのが難しくなり、品種転換も検討されています。

LIGHT AND SHADOW

# 北海道にとっても、光と影がある

## 恩恵

- ピノ・ノワールなど高級赤品種の適地化
- 赤ワイン醸造の成功事例が拡大
- 栽培面積・ワイナリー数ともに増加
- 国内外からの注目度が向上

## 課題

- 高温期に果実の着色不良が発生
- 日焼け（サンバーン）のリスク増加
- 冬季の越冬条件の変化
- 生育リズムの変化への継続的な対応が必要

ADAPTATION

# 産地を守る、現場の適応策

### 遮光・反射資材の活用

反射シートなどを用いて、高温期の日焼け（サンバーン）や着色不良を防ぐ工夫が進められています。

### 環状剥皮などの栽培技術

樹皮を環状に剥皮するなどの技術により、果実の着色や成熟を促進する取り組みも行われています。

### 気象データに基づく栽培支援

農研機構などが、メッシュ農業気象データを活用したワイン用ブドウ栽培の支援システムを開発しています。

INDUSTRY SUPPORT

# 産地の成長を支える官民の取り組み

### GI北海道

地理的表示（GI）制度により、産地としてのブランド価値を保護・向上。

### 「山幸」のOIV登録

北海道独自のブドウ品種が国際ブドウ・ワイン機構（OIV）に登録。

### 北海道ワインバレー構想

2022年4月発表。北海道大学と連携し、産業基盤の強化を推進。

### 北海道ワインプラットフォーム

2022年4月設立。人材育成・経営・マーケティングを支援する官民組織。

まとめ

# 気候変動時代の、新しいワイン産地へ

地球温暖化は、世界のワイン産地に光と影の両方をもたらしています。伝統産地が高温や山火事、遅霜といった試練に直面する一方、北海道は新たな適地としてピノ・ノワールをはじめとする高級品種の可能性を広げてきました。

同時に、日焼けや着色不良、越冬条件の変化といった新たな課題にも直面しており、遮光資材や環状剥皮、気象データ活用などの適応策が続けられています。

*「適応」と「挑戦」を続けながら、北海道は日本ワインの新しいフロンティアであり続けます。*

REFERENCES

# 参考情報・出典


- ウェザーニュース「気候変動はワイン産地にも影響 北海道では高級品種ピノ・ノワール生産の適地に」（2024年11月）
- 農研機構「気候変動で北海道の産地でワイン用ブドウ『ピノ・ノワール』が栽培可能に」
- 北海道庁 経済部食関連産業局食産業振興課「ワイン産業の振興」
- アカデミー・デュ・ヴァン「北海道ワイン ～その勢いに目が離せない！」
- 気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）「北海道農業における気候変動適応の取組」
- エノテカ「地球温暖化がワインに与える影響」
- ワイナリー所在地：北海道ワイン／ドメーヌ・タカヒコ／NIKI Hills Winery／宝水ワイナリー／山崎ワイナリー／鶴沼ワイナリー／十勝ワイン／ふらのワイン 各公式サイト・自治体公式ページ


*本資料は公開情報をもとに作成した一般向けの解説資料です。*